雲仙

第１６１号
２０２５年　冬号

家畜衛生情報



島原城築城400年記念プロジェクションマッピング

長崎県 県南家畜保健衛生所
（長崎県 島原振興局 農林水産部 衛生課、防疫課）

〒859-1415　長崎県島原市有明町大三東戊908-1
TEL：(0957)68-1177（休日、夜間も転送電話対応）
FAX：(0957)68-2056
Eメール：s11340@pref.nagasaki.lg.jp

県南家畜保健衛生所　長崎県　検索

【QRコード】

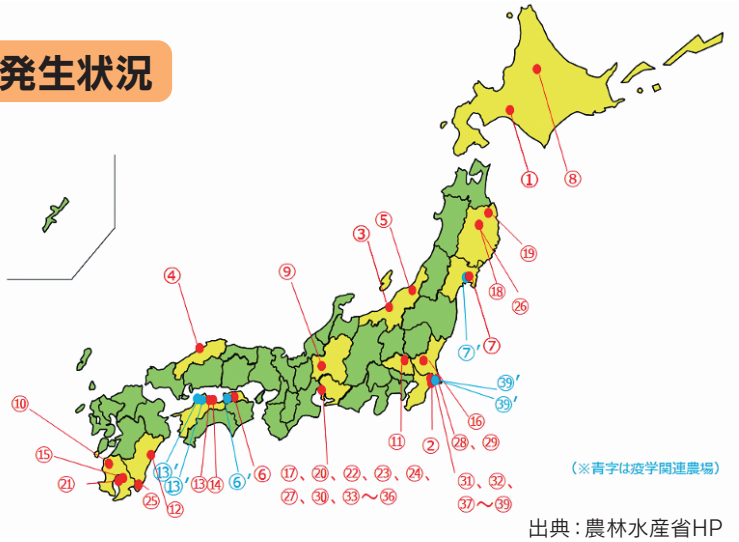
高病原性鳥インフルエンザを発生させないために
防疫体制の「隙」を埋める対策を!

令和6年シーズンは、家きん39事例、野鳥98事例で高病原性鳥インフルエンザが発生しています（1月19日現在）。

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザ発生状況

令和7年1月19日現在
家きん：14道県39事例　野鳥：16道県98事例

11月に鳥インフルエンザ防疫対策緊急全国会議が開催され、今シーズンの発生状況を踏まえた対策強化のポイントが示されました。その中で、従来の対策に加え、今シーズンの発生状況から新たな対策ポイントが示されました。家きん飼養者、関係者の皆様は、以下の点に留意しながら、飼養衛生管理基準を遵守徹底してください。



出典：農林水産省HP

対策強化のポイント

＜野鳥・野生動物の侵入・誘引防止＞

金網や防鳥ネット等の破損	集卵ベルトや鶏糞排出口の隙間	堆肥舎での卵や廃鶏の放置による野鳥の誘引	鶏舎周辺の野鳥の住処等の除去	外部作業者の消毒の不徹底
				

上記のような鶏舎の構造・周辺環境に「隙」がないか、今一度、再点検をお願いします。

＜今シーズンの発生事例を踏まえた、新たな「隙」を埋める対策＞

●塵埃侵入防止

乾燥し塵埃が舞いやすい環境下で換気後に入気口周辺に死亡鶏が分布していた事例があり、野鳥の羽毛や排せつ物中のウイルスが塵埃とともに鶏舎に侵入した可能性が考えられます。

→**鶏舎周囲に消石灰を撒いた後**や**カーテンを開けるなど塵埃の立ちやすいとき**に、石灰の上から逆性石鹸等での**散水・消毒**を実施してください。また、ウインドウレス鶏舎においては、入気口の**フィルター設置**も有効と考えられます。

●農場外の関係者を含めた飼養衛生管理の徹底

外部からの農場入場者が、靴の履き替え等の飼養衛生管理が不十分だった事例がありました。

→農場外の関係者を含め、農場に出入りする際は衣服・靴の履き替えや車両消毒等の飼養衛生管理を徹底するとともに、不要不急の工事はシーズン後まで延期できないか検討してください。

「まとまった場所での家きんの死亡」、「死亡羽数増加」、「産卵低下」等、異状を認めた場合はすぐ当所へ通報願います。

ランピースキン病発生状況と対策

ランピースキン病は2024年11月6日以降、12月27日までに福岡県の19農場（乳用16農場、乳用・肉用1農場、肉用2農場）、熊本県の3農場（乳用1農場、乳用・肉用1農場、肉用1農場）で本病の発生が確認されています。

ランピースキン病とは

・ランピースキン病ウイルスによって引き起こされる牛や水牛の病気です。
・死亡率は１～５％と低いですが、**皮膚の結節、水腫、発熱、鼻汁、流涎、食欲不振、乳量の減少等の症状**がみられ、ほとんどの牛は発症しても徐々に回復します。
・有効なワクチンで発症予防できます。なお、ワクチン接種には知事の命令が必要です。
・主に**蚊、ハエ、ダニによる伝播**や、**感染した牛の移動**により感染が拡大します。
車両や人もウイルスを運ぶ可能性があるので、下記の対策をお願いします。


▲結節（全身性）


結節　結節
写真提供：FAO、State Central Veterinary Laboratory in Mongolia


◀皮膚病変

本病の対策

サシバエは24時間に21km～28km移動する能力があるとの報告もある


◀サシバエ

❶**衛生害虫対策**
❷**早期発見、隔離、移動の自粛又はとう汰**
❸農場への入出場時における**車両の洗浄・消毒、車体や車内への殺虫剤の散布**
❹注射針、人工授精用器具、その他体液（生乳を除く）が付着する物品を使用する場合は、**1頭ごとに確実に交換又は消毒**


ノサシバエ▶

衛生害虫対策について

冬前のハエ1匹は来シーズンの1万匹に相当する…といわれるくらい重要です。来シーズンに発生するハエは「今」飛んでいるハエの子孫ですので、対策をすることで初発生を減らすことができます。



❶「現在」飛んでいるハエを対策する ▶ **成虫対策剤（空間散布剤）、ベイト剤**
気温が下がってくるとハエは陽だまりに集まる

❷「未来」のハエを対策する ▶ **IGR剤（昆虫成長制御剤）**
↑まだハエ成虫が飛んでいる場合に限る！

【散布場所】
堆肥場周辺、バンクリーナー及びバンクリーナー出口付近、子牛ハッチ前、哺乳ロボット、除糞しにくい場所、牛床の端、飼槽、水槽周辺など

❸サシバエの牛舎への侵入を対策する ▶ **ネット**
またサシバエは昼間、牛舎周辺の葉の裏で休息しているので牛舎周辺の草刈りも効果的です！

成虫対策剤使用のポイント、注意点

☑同一薬剤の連用はさけ、感受性を落とさないよう、効果のあるうちにローテーションしてください（3～4か月ごと）
☑共力剤（害虫体内の解毒酵素を抑制する）入りのものを選択しましょう
☑牛体に使用できない製品が多いので、牛体にかからないよう十分注意して使用してください
☑**誤った使用法により環境に悪影響を及ぼす可能性があります**
薬剤に添付されている用量・用法を守って使用してください

詳しい情報は、農水HPへ

ランピースキン病発生に伴う
米国向けへの牛肉輸出の取扱いについて

ランピースキン病の発生を受け、福岡県でワクチン接種を実施中です。米国向け牛肉については、ワクチン接種県由来の牛肉に限って、当面輸出が制限されることとなりました。ランピースキン病ワクチン接種県由来の牛を取り扱う場合には、以下の内容について、ご協力をよろしくお願いします。なお、11月20日までに福岡県で飼養されていた牛は、ワクチン接種前であることが確かなので、措置の対象外となります。

12月12日以降の対応

1.牛について

ワクチン接種県由来の牛は、
米国向け輸出牛肉取扱施設に**搬入しない**。

◀米国向け輸出食肉取扱施設リスト（農水HP）



2.施設・輸送について

対米輸出を行う施設は、ワクチン非接種県の施設であることのほか、**輸送時にはワクチン接種牛と非接種牛を同乗させない**取り決めとなっている。なお、農場でワクチン接種牛と非接種牛を同居させることは問題なし。

生産者、家畜市場、家畜商等の対応

・ワクチン接種県の牛の取引・異動の際は、**必ず接種証明書を添付する。**
・と畜予定牛リストを作成し、原則、出荷の前日までに米国向け輸出牛肉取扱い施設へ提出する。
・出荷時は車両を適切に洗浄・消毒する。



抗菌剤の適正・慎重使用を徹底しましょう



なぜ抗菌剤の適正・慎重使用が必要なのか？

●薬剤耐性菌とは

・薬剤耐性菌とは「抗菌剤が効かない細菌」です。
・薬剤耐性菌に人や動物が感染すると治療が困難となり、命を落とすこともあります。
・薬剤耐性菌は、抗菌剤の使い過ぎなどにより増加します。

●薬剤耐性菌と畜産との関わりは？

・畜産分野において抗菌剤は、動物用医薬品や飼料添加物として使用されています。
・家畜への抗菌剤の使用により増加した薬剤耐性菌が、畜産物等を介して人に感染すると、治療を困難にすることが懸念されています。

畜産関係者が実施すべき対策は？

・生産者や獣医師をはじめとする畜産関係者は、薬剤耐性菌を理解し、「抗菌剤の適正・慎重使用」を徹底することが求められています。特に以下の４点について取組をお願いします。

①飼養衛生管理の徹底やワクチンの使用により感染症の発生を減らすことで、抗菌剤の使用機会を減らすこと。
②抗菌剤の予防的投与を自粛し、使用を真に必要な場合に限定すること。
③フルオロキノロン系および第三世代セファロスポリン系薬剤は第一選択薬が無効の場合のみ第二選択薬として使用すること。
④投薬履歴の記録を３年間保存すること。

死亡家畜の処理は適正に行いましょう!

家畜の飼養者は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」および「化製場等に関する法律」に従い、家畜の死体を適切に処理しなければなりません。死亡畜は必ず死亡畜の処理運搬業者へ連絡し、適切に処理してください。

1、死体は自己所有地であっても埋却してはいけません。
2、子牛であっても埋却してはいけません。
3、定期報告書で報告している「埋却地」は、通常の死亡家畜の埋却に使用してはいけません。

〈廃棄物の処理及び清掃に関する法律〉
動物の死体は産業廃棄物にあたります【第二条】
事業者は、廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければなりません【第三条】
これら廃棄物をみだりに捨てることは禁止されています【第十六条】

〈化製場等に関する法律〉
死亡獣畜の解体、埋却または焼却は、死亡獣畜取扱場以外の施設又は区域で行う事は禁止されています【第二条】

畜体への注射針残留を防止しましょう!



注射針の残留防止は、食の安全・安心を推進する上で重要な管理点です。
以下の留意事項を守り、日頃の飼養管理の徹底をお願いします。

注射針を残留させないために

◎注射の際は、家畜が動かないようにしっかりと保定し、曲がった注射針は絶対に使用しないこと
◎注射針が折れて家畜の体内に残留した場合は、速やかに除去すること

注射針が残留した場合

◎注射部位にマークを付け、注射針が残留した家畜と部位が識別できるようにすること
◎家畜の飼養者は、出荷先またはと畜場に注射針が残留していることを必ず伝えること

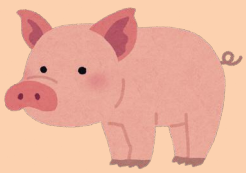
令和7年度分の豚熱ワクチン使用許可申請書の提出をお願いします

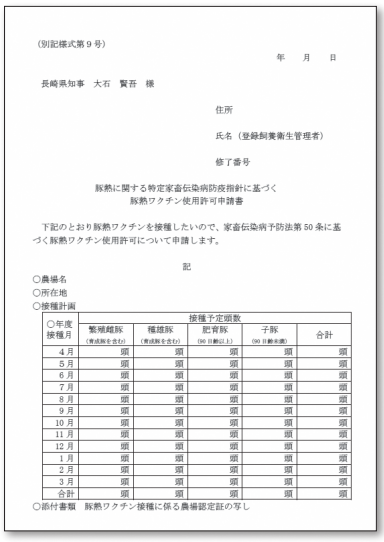
年度末が近づいてまいりました。養豚生産者の皆様におかれましては、次年度の豚熱ワクチン使用許可申請書の提出をお願いします。

本申請書は農場ごとではなく、ワクチンを接種する登録飼養衛生管理者ごとに作成していただく必要があり、各農場の登録飼養衛生管理者1名につき1部の申請書を作成してください。なお、本年度もオンラインでの入力フォームを作成しておりますので積極的にご活用いただけましたら幸いです。

〈提出方法〉 同封の豚熱ワクチン使用許可申請書（右図）を家保に提出
または、当所がSMSにて送付するリンクから入力フォームにアクセス

〈提出期限〉 令和7年2月28日





（別記様式第９号）

年　月　日

長崎県知事　大石　賢吾　様

住所

氏名（登録飼養衛生管理者）

修了番号

豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針に基づく
豚熱ワクチン使用許可申請書

下記のとおり豚熱ワクチンを接種したいので、家畜伝染病予防法第 50 条に基づく豚熱ワクチン使用許可について申請します。

記

○農場名
○所在地
○接種計画

○年度 接種月	接種予定頭数 繁殖雌豚 （育成豚を含む）	種雄豚 （育成豚を含む）	肥育豚 （90 日齢以上）	子豚 （90 日齢未満）	合計
4 月	頭	頭	頭	頭	頭
5 月	頭	頭	頭	頭	頭
6 月	頭	頭	頭	頭	頭
7 月	頭	頭	頭	頭	頭
8 月	頭	頭	頭	頭	頭
9 月	頭	頭	頭	頭	頭
10 月	頭	頭	頭	頭	頭
11 月	頭	頭	頭	頭	頭
12 月	頭	頭	頭	頭	頭
1 月	頭	頭	頭	頭	頭
2 月	頭	頭	頭	頭	頭
3 月	頭	頭	頭	頭	頭
合計	頭	頭	頭	頭	頭

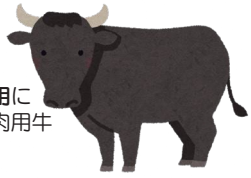
○添付書類　豚熱ワクチン接種に係る農場認定証の写し

県外導入牛にはヨーネ病検査を実施しましょう

ヨーネ病は、ヨーネ菌に感染して起こる病気です。慢性で頑固な下痢、乳量減少、削痩を呈する法定伝染病で、本県でも発生が確認されています。本病は、長い潜伏期間（6カ月～数年）によって**気付かないうちに農場内で感染拡大**する上、一度農場内に侵入すると**清浄化までに長期間を要するため大きな経済的被害**をもたらします。

本県では「長崎県ヨーネ病防疫対策要領」に基づき、県外からの導入牛（繁殖や搾乳の用に供する牛）について検査を実施し、農場への侵入防止を行っています。**牛を県外から導入される場合は当所までご連絡お願いします。**

検査対象



繁殖の用に供する肉用牛（雄・雌）



搾乳の用に供する雌牛

〈ヨーネ病年間発生頭数〉

年度	国　内	県　内
R4	519戸 1,147頭	3戸 4頭
R5	471戸 1,060頭	0戸 0頭
R6（9月時点）	381戸 873頭	0戸 0頭

牛異常産関連ウイルスの動きが確認されました

令和6年度アルボウイルス（蚊やヌカカなどの吸血昆虫で媒介されるウイルス）サーベイランスにおいて、長崎県内の調査対象牛から**アカバネウイルス、アイノウイルス、流行性出血病ウイルス血清型6**の流行が確認されました。これから春先にかけて異常産が発生するリスクが高い状況ですので、以下の症状が見られた場合には当所まで連絡をお願いします。**アカバネウイルス、アイノウイルス、チュウザンウイルス、ピートンウイルスは牛異常産ワクチンにより予防できます。**

アカバネウイルス

- 流産、早産、死産
- 四肢の関節湾曲
- 脊柱湾曲などの体形異状
- 大脳欠損症などの中枢神経異常を伴う先天的な奇形
- 生後感染による子牛や成牛の麻痺や起立不能



出典：家畜疾病カラーアトラス

アイノウイルス

- 流産、早産、死産
- 四肢の関節湾曲
- 脊柱湾曲などの体形異状
- 大脳欠損症などの中枢神経異常を伴う先天的な奇形



出典：農研機構

流行性出血病ウイルス血清型6

- 感染初期には発熱、元気消失、食欲減退、流涙、結膜の充血・浮腫、水様(膿様)鼻汁、泡沫性流涎
- 後期になると、嚥下障害、鼻腔・口腔粘膜の充血・うっ血・潰瘍、蹄冠部の潰瘍、流死産



出典：農研機構

全国家畜保健衛生業績発表会と鶏病技術研修会で発表した演題が表彰されました！

■第65回全国家畜保健衛生業績発表会
（令和6年9月19～20日：銀座ブロッサム中央会館）

◎消費安全局長賞
「クラウドサービスを用いた照会システムの作成とその活用による家保業務の効率化」

■2024年度九州地区鶏病技術研修会
（令和6年10月18日：長崎歴史文化博物館）

◎優秀賞
「鶏大腸菌症の誘発因子対策による発生予防の試みと対策効果の検証」